

総括

大田 今日のお話のような、サービスを中心にした社会になっていくときは、やはり地方も変わらなければいけないということの一つ申し上げたいと思います。

日本はずっと、分散、分散できました。集中はよくないんだ、分散がいいんだということできましたけれども、サービスが中心の時代になりますと人口の集積が大事になってきます。

首都圏には3,000万の人口があります。すると、1%ただけで、30万人の需要がある。30万人の需要があれば、いろいろなサービスが生まれ、雇用も生まれていきます。ですから、ある程度の人口集積が必要です。これまでのようにすべての県に空港が必要だというような発想ではなく、意図的に集積をつくっていくような公共事業のありかた、地域の活性化のありかたが必要ではないでしょうか。消費者本位の社会、お金の使い勝手がある社会ということは、売る側からいいますとお金に見合ったものを提供しなければいけないということで、地域づくりもやはり一流のものでないといけないと考えています。

高齢化社会については、財政面では難しい話が多いのですが、私は、やっとな大人の時代が到来したのだと思います。成熟した文化といいまし

ょうか、何かの経験があり、いいものを知っていて、いくらかの蓄えがある人たちが選択する成熟した文化が栄える時代で、伊藤先生がおっしゃっている“都市は美しくなければいけない”というご意見も、そういう意味なのではないでしょうか。

今、日本経済は転換期で非常に厳しい状況にありますが、この10年の間にひたひたと進んできている私たちの成熟したいものを、もう少し見ていく側面が必要ではないかと思えます。

大山 今、私たちが直面している最大の課題は、この一見豊かに見える社会の中で、どういった形の新しい価値社会というものをつくりあげるかということではないかと実感しています。

ポイントは非常にシンプルなメッセージなのですが、私達全員の意識の改革であろうと。私達は今まで、“情報は無料である”“サービスは無料である”という感覚に、あまり疑いを持たずに生きてきました。しかし今後は、このような感覚の世界から脱皮して新しい価値社会をつくる、そういったスタンスをとるべきではないかと思っています。

島田 今、中国や韓国では、みんなが“中国は倍になるんだよ。オリ

ピックが来るときまで国が倍になるんだよ”と叫んでいるから、外からどんどん投資しています。日本ではどうか。日本に投資家が来ます。素晴らしい生活をしていて、成熟国になっているように見えるのに、国民はみんな下を向いている。こんな国に誰が投資をしますか？

日本は世界の中でも最も豊かなものを持っていて、規制改革もある程度進んでいるのに、ぜんぜん動いていない。なぜかという、内なる改革の力がないんですね。内なる改革の力に何が一番欠けているかという、考え方です。私達が私達自身の将来に自信を持っていいという考え方なんです。例えば、我々が食べている日本食を考えてみたら、健康食だということで世界で有名です。そういうことについて自信を持つということなんです。

皆さまに申し上げたいのは、政府にも政治家の先生にも、もっともってやってもらいたいけど、一番重要なのは私達が自信を持つことだということ。自信は自分がつくるんです。頑張らしましょう！

宮崎 今日お話に出たようなことを、皆さまお一人お一人に自信を持って実行していただいたら、この国は変わるかもしれません。ありがとうございました。